

取組内容	実施プログラム【14】子ども・子育て支援の総合的な推進
関係課	子ども支援課、保育幼稚園課、青少年育成課、教育政策課

＜点検結果の総括＞①就学前児童に関する取組

実施プログラムの就学前児童に関する取組状況について点検を行ったところ、「待機児童の解消」という課題を中心に種々議論がなされ、待機児童ゼロをめざすのは当然であるが、少子化が進む中で安易に保育園を新設することは現実的でなく、小規模保育や家庭的保育を拡充するなどの手法により待機児童の解消につなげていく必要があるのではないかなどの意見が出された。また、地域で子どもを育てる意識を醸成していくべきという意見や、これから親になる世代も意識し、出産・子育てしやすいまちになるよう、市独自の取組も必要ではないかとの意見、今後の保育園のあり方について、行政だけでなく民間活力の更なる活用も含め、本市全体で役割を担っていくことが必要との意見が出された。現在の取組状況は概ね良好であるが、今後も改善の意識を持ちながら継続して取組を進める必要があるとの点検結果となった。

＜委員からの意見＞

- ・家庭的保育事業や小規模保育事業の推進により待機児童が大幅に解消されたことは、親たちが働ける環境の実現につながっているという点においても大きな成果であり評価したい。
- ・現在の働き方そのものを見直していく必要があるが、社会全体のワークライフバランスに関する問題でもあるため、市としてはこのまま改善・改良の意識を持って取組を進めていただきたい。
- ・予算の確保も含めて、継続的に国への要望を行っていただきたい。
- ・整った施設で高度な保育を受けられることは良いことだとは思いますが、子育てにおいて一番重要なことは地域や親兄弟とのつながりだと考える。その関係性が希薄化していることは少し不安である。
- ・保育子育て相談の利用者支援員について、プロの意見を聞くことができるのは安心感も得られ好評だと聞いているが、現状各区に1名しかいないため、今後増員等について検討してもらいたい。
- ・1人目を保育園に預けている間に、2人目の育児休暇を取得すると1人目が（3歳未満の場合）保育園を退園しないといけないが、この制度は少子化にもつながりかねないものであり、ぜひ見直していただきたい。
- ・早期に待機児童ゼロを達成してもらいたい。また、自宅周辺や勤務地の近くなど希望の園に入所できるような配慮をお願いしたい。
- ・保育士の雇用環境の改善にもできる限り取り組んでいただきたい。
- ・虐待等を防止するために、親への教育やこれから親になる方への教育を行っていただきたい。